

天文学の扉を開こう

12月の夜空

【夜空の宝石】

12月も半ばになると、澄んだ夜空に、星々が音もなくきらめく様を目にすることができます。「こんなに星がきれいに見えるようになって、やっぱり星を見るなら冬だなあ」と思われるかもしれません。確かに、冬の関東地方は空気が澄み、凍えるような寒さとも相まって、星々が美しく輝いて見えるようです。けれども、他の季節に比べて、決して条件が良いわけではありません。むしろ悪いぐらいです。冬は気流が乱れやすく、揺れる水面を通して見た池の底にあるかのように、星々が揺れてしまうのです。ちらちらと瞬く姿がそれです。

では、なぜ「星を見るなら冬だなあ」と感じられるのでしょうか。それは、冬の星々には一等星が多いからだろうと言われています。星図を見てもはっきりわかるように、冬を代表する星座には明るい星が入っています。オリオン座にはベテルギウスとリゲル、おおいて座には北天で一番明るいシリウス、こいぬ座にはプロキオン、ふたご座にはポルクス、ぎょしゃ座にはカペラ、そしておうし座にはアルデバラン。これに加えてプレアデス星団（すばる）がおうし座にあります。これだけ目立つ星があれば、賑やかに感じられるのも無理はありません。さながら、夜空の宝石店のようです。

実際に、冬の夜空にはダイヤモンドがあります。ベテルギウスを除く前記の6つの星々を結んでできる「冬のダイヤモンド」です。その内側に、ベテルギウスのだいたい色の輝きがあります。

ところで、12月半ばと言えば、「ふたご座流星群」のピークを迎える時期でもあります。今年は14日午後9時頃と予想されていて、夜半まで月明かりもないので、観察の絶好機です。この流星群の放射点はポルクスと対になる星（神話では、双子の兄弟の兄）として知られるカストルの近くですから、冬のダイヤモンドの一角から、四方八方へと広がるように流れ星が現れます。シリウスやリゲル、アルデバランの方へ流れれば、それはまるで冬のダイヤモンドの輝きのようにも感じられるかもしれませんね。

12月のぐんま天文台のイベント

・13日(土)

みちくさツアー（屋外での星空解説）

（ボランティア自主企画）

・14日(日)

ふたご座流星群説明会・観察会

あたたかい「おもてなしコーナー」あります。

ふたご座流星群協賛キャンペーン：道の駅中山盆地駐車場から送迎バスが出ます。直売所は夜12時まで、ふれあいプラザは夜1時までオープン。

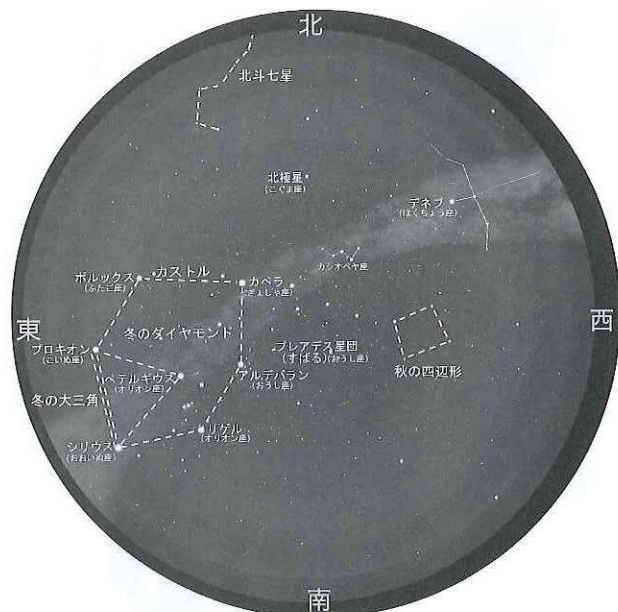
・20日(土)

双眼鏡で天体を探そう

（ボランティア自主企画）

○星図の説明

12月15日午後9時の高山村の星空。月初めの午後10時、月末の午後8時頃にも同じ星空になります。（月を除く。）



リトルミュージアム

高山幼稚園5歳児の作品

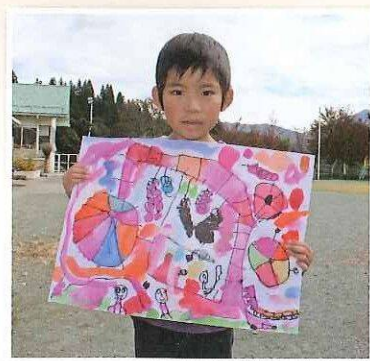
秋の思い出をフェルトペンと絵の具を使って描きました！



からさわ れいちゃん



こぶち だんじくん



おの らいむくん



はやし かずまくん



のがみ よしたかくん



つづき たくとくん

こちら「5代目緑のふるさと協力隊」

こんにちは！第21期緑のふるさと協力隊の関根菜規です。もう寒すぎていつ雪が降ってもおかしくないですね。今年も残り12月だけとなってしまいました。みなさんは2014年を振り返ってみて、どのような年になりましたか？

私は、大きな出来事が2つありました。まず1つ目は短大を卒業したこと。そしてもう1つは、協力隊になって高山村に来たことです。

協力隊に参加した動機は、何となく良い経験になりそうだな……くらいの軽い気持ちでした。ですが、高山村に来て、毎日のように外に出て活動してみても、想像以上に良い経験をさせていただけいています。自分で言うのもなんですが、レベルがグッと上がったように感じます。

さて、振り返ることもこのくらいにして、将来について考えなくてはならない時期に



なってきました。今、いっぱい考えています。来年の今頃は何しているのかな……

11月12日に行われた骨密度検査では、「減少傾向にある」と診断されました。まだ21歳なのに……

……まだ21歳なのに……いっばい牛乳を飲んで、カルシウムを補給し、今以上に減らないよう維持していきたいと思えます。みなさんも気を付けてください！牛乳の他に、「煮干し」や「ししゃも」なども良いみたいですよ！



ブロック交流会&ふるさとフォーラム

高菜っちゃんブログ <http://taka-midori05.jugem.jp/>